

【記 録】

## 令和2年7月4日豪雨災害に関する文化財レスキュー — 坂本町の仏像・仏具を中心に —

石原 浩<sup>1)\*</sup>

1 八代市立博物館未来の森ミュージアム 〒866-0863 八代市西松江城町 12-35

### 要 旨

本稿は、令和2年7月4日豪雨災害で甚大な被害を受けた坂本町を中心に、八代市立博物館未来の森ミュージアムが携わった文化財レスキューの事例を報告するものである。芦北町鎌瀬阿弥陀堂から流された仏像の発見と返還、中津道阿弥陀堂の仏像清掃活動、そして大門観音堂にある鰐口（熊本県指定重要文化財）の救済と修理計画について報告し、その成果と問題点について検証する。また、文化財レスキューに先立って実施した悉皆調査の重要性、坂本町住民が立ち上げた「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会」の活動と復興への期待について触れる。

キーワード：鎌瀬阿弥陀堂、坂本町復興計画、悉皆調査、大門観音堂、中津道阿弥陀堂、文化財レスキュー

### 1 はじめに

八代市立博物館未来の森ミュージアムは、令和2年7月4日の球磨川豪雨災害を受け、夏季特別展覧会および秋季特別展覧会の開催を中止した。出品予定作品の所在地が一部被災したことと、市として被災地の復旧事業を優先したためである。被災された皆様に対しましては、この場をお借りして、心よりお見舞い申し上げます。

今回の豪雨災害を受けて、熊本県教育庁文化課や熊本大学を中心とする文化財レスキューの組織は早々に活動を開始し、古文書を中心に一部の文化財が救出された。しかしながら、壊滅的な被害

を受けた八代市坂本町は沿岸の国道・県道が寸断され、仮復旧する8月中旬までは一般支援すら困難な状況にあった。八代市立博物館未来の森ミュージアムの学芸員は、八代市職員として避難所（八代市総合体育館）の支援活動に参加するとともに、被災地の文化財に関する情報収集につとめた。

坂本町大門地区が所有する大門観音堂および大門薬師堂の鰐口（熊本県指定重要文化財）の被害確認は、八代市文化振興課職員が7月20日に実施した。坂本町大門地区はもっとも被害の大きかった地域の1つであり、この時点では十分な聞き取り調査ができなかった。薬師堂の鰐口は目視で確認できたが、保管庫に収納されていた観音堂の鰐口は、鍵がなく、この日は現物を確認できなかった。

\*Corresponding author: e-mail: hiro-ieo@city.yatsushiro.lg.jp

「本格的な文化財レスキューを開始する時が来た。」と筆者が実感したのは、坂本町中津道の世話役である中川秀徳氏の依頼により、中津道阿弥陀堂の被災調査を実施した8月12日のことである。中川氏によると「災害発生以来、家屋の清掃に明け暮れていたが、ようやくその目途がつき、地区内の阿弥陀堂を清掃して安らかな気持ちで盆を迎えたい。」という想いに至ったという。災害発生から40日を経て、ようやく文化財レスキューのタイミングを得たということになる。

本稿では、筆者が携わった文化財レスキューについて紹介する。わずかな活動しかできていないこと、力の及ばないことを痛感するばかりではあるが、今後の災害復旧および文化財レスキューの充実のための一助となれば幸いである。

## II 芦北町告鎌瀬阿弥陀堂の仏像流出と生還

7月31日（金）発行の熊本日日新聞（以下熊日）に「芦北町告の観音菩薩 上天草市の海岸に漂着 流出の像“生還”に笑顔」という見出しの記事が掲載された。同月13日（月）、漂着ゴミの撤去作業をしていた建設会社「村上工業」（宇城市三角町）の従業員が、重機でつかみ上げた流木の中に観音菩薩像を発見した。同月24日（金）の熊日の記事で芦北町告の阿弥陀三尊像が流されたことを知り、管理者の鎌倉政義氏に連絡した。同月29日（水）、鎌倉氏が同社を訪ねて、告の観音像であることを確認し、流出像は25日ぶりに生還を果たした。

### (1) 漂着仏の照会

時を同じくして、7月28日（火）、宇城市教育委員会（神川氏）から八代市立博物館未来の森ミュージアムに電話があり、漂着仏の写真と漂着

地を記した地図を添付した文化財照会メールが届いた。担当者からの情報によると、宇城市の会社員萩坂豊氏が、同市不知火町長崎字桂原の八代海に面する海岸に打ち寄せた大量の漂着物の中から仏像を発見し、宇城警察署に届け出た。まずは同市文化課に相談するように助言されて市役所に来庁されたとのこと。市文化課で写真撮影し（図1左）、熊本県文化課および八代市立博物館に照会があった。

平成の大合併後に当館が実施した坂本町全地区の寺社調査の調書（寺社祠堂90件）<sup>1)</sup>および芦北町告の鎌瀬阿弥陀堂の調査調書<sup>2)</sup>（図1右）を確認したところ、



図1（左）宇城市不知火町長崎字桂原の海岸に漂着した芦北町告の鎌瀬阿弥陀堂の御本尊（阿弥陀如来立像）（宇城市撮影）、（右）被災前（2015年2月23日）に、芦北町教育委員会の依頼により当館が実施した調査の調書<sup>2)</sup>に収録された同像の写真（八代市立博物館撮影）。今回の被災で、光背、両手首先、両足指先および台座が欠失し、彩色も色落した状態となっている。

漂着の仏像は芦北町告鎌瀬阿弥陀堂の御本尊であることが判明した(図2)。さっそく宇城市教育委員会および芦北町教育委員会(深川氏)に連絡を取り、流出仏の所在地が判明したことを報告した。鎌瀬阿弥陀堂の管理者には芦北町教育委員会から連絡を取ってもらい、8月4日(火)、無事に管理者の元へ返還された。



図2 芦北町告の鎌瀬阿弥陀堂に安置されていた木造阿弥陀三尊像(左:勢至菩薩立像,中:阿弥陀如来立像,右:観音菩薩立像)<sup>2)</sup>。左側の勢至像は、まだ行方不明のままとなっている。

## (2) 組織を超えた連携

今回、地元の阿弥陀堂管理者による仏像搜索の依頼という熱意に始まり、発見者、警察、県市町村の文化課、博物館、そして新聞社のそれぞれが業務の枠を超えて連携し、情報交換したことが功を奏した。加えて今回、仏像の所在確認ができたのは、当館が開館以来進めてきた「八代市内寺社歴史資料調査事業」<sup>1)</sup>および周辺市町村からの依頼による寺社調査の結果をまとめた

調査があったからである。郷土の文化財の悉皆調査の重要性を、改めて認識した次第である。しかしながら、阿弥陀三尊像のうち勢至菩薩立像は未発見のままであり、他の寺社祠堂からの流出仏の発見事例も未だない。

## III 坂本町中津道阿弥陀堂の被害調査と仏像清掃

8月11日(火)、八代市総合体育館で避難生活を続けていた坂本町中津道の世話役中川秀徳氏より、避難所の受付に「仏像を洗いたいので大盥を貸してほしい」との相談があった。同日、受付を担当していた学芸員資格を有する大橋氏が「博物館に相談するように」と助言し、当館がその相談を受けることになった。

相談の内容は、水没した中津道阿弥陀堂の中で泥まみれになって倒れている仏像を洗い清めて、元のようにまつりたいという申し出であった。松村副館長の後押しもあり、早速、中川氏の案内で中津道阿弥陀堂を訪ねた。持参したのは、普段、仏像調査で使用する清掃具(刷毛、筆、ブロアー)に加え、脱脂綿、ガーゼ、タオル、バケツ、水などである。8月12日(水)、ようやく復旧した国道および県道を通行して中津道までたどり着いた。複数の橋が流されていたこと、自衛隊によって修復された道路は支援車の往来も多かったこと、さらには球磨川の左右どちらを走行するか明確に認識していないと目的地にはたどり着けないことから、地元の人々の道案内は必須であった。

## (1) 被災状況

中津道阿弥陀堂は、およそ2メートル水没したとのこと、堂自体は無事であったが、堂内の仏像や厨子は増水により一旦水に浮き、泥をかぶった状態で転倒していた。本尊の木造阿弥陀三尊像

(図3)のうち、阿弥陀如来立像は堂内で発見され、観音菩薩立像は隣家の床下から発見されたが、勢至菩薩立像は流出していた。他に木造十一面観音菩薩1軀、木造地藏菩薩3軀は堂内で発見されたが、木造地藏菩薩4軀は流出していた(図4)。このような被災状況は、坂本町全地区の寺社調査の調書<sup>1)</sup>と照合することにより確認することができた。なお、道向かいにある中津阿蘇神社は



図3 八代市坂本町大字中津道の阿弥陀堂に安置されていた木造阿弥陀三尊像<sup>1)</sup>。左：流出したままの勢至菩薩像，中央：阿弥陀如来立像，右：観音菩薩像。



図4 左：堂内で発見され阿弥陀如来立像，右：隣家の床下で発見された観音菩薩像ほか諸仏。(撮影：2020年8月12日)

3メートル程度水没し、床下に厚く泥がたまり、境内の金毘羅宮は水に浮いて礎石から外れて傾斜していた。

## (2) 仏像のクリーニング

仏像は、部分的に泥を1cm程度被った状態で倒れていた(図5)。まずは刷毛や筆で表面に付着した泥汚れを落とした。一木造で木質がしっかりしている仏像は水を含ませたガーゼや脱脂綿で丁寧に拭いて泥を落とし、数時間陰干した。その間厨子や仏壇の清掃を行い、調書の写真を見ながら仏像を元の位置に戻した。普段木彫仏を水洗いすることはないのだが、今回のように分厚く泥を被った状況では、臨機応変の作業も必要である。この日は、4時間程度の作業となった。

## (3) 文化財レスキューの意義とタイミング

仏像彫刻は、一木造、寄木造、玉眼、彫眼、彩色、漆箔など、各尊の構造が違うので、それぞれの彫刻に相応しい方法でクリーニングしなければ破壊する恐れがある。今回は、地元世話役および避難所受付職員の適切な対応により、博物館学



図5 左：堂内に入り込んで溜まった泥や木々の破片，右：本尊光背に厚く付着した泥や木屑。(撮影：2020年8月12日)

芸員のノウハウを生かした文化財レスキューができた。世話役の話によると、地区住民は自宅の清掃作業に毎日避難所から坂本に通い、災害発生から約40日を経過した盆前によくその目途が立って、堂を掃除したいという想いに至ったという。被災住民の生活再建の合間を縫って実施する文化財レスキューは、活動開始のタイミングを見極めるのが困難であり、繊細な判断が必要である。

#### IV 坂本町葉木大門観音堂「鰐口」(熊本県指定重要文化財)の救済

9月23日(水)、八代市文化振興課とともに、坂本町葉木大門地区の大門観音堂所在の鰐口(熊本県指定重要文化財<sup>3)</sup>)の被害調査を実施した。参加者は文化振興課の吉永氏と西山氏、八代市立博物館から筆者、そして大門地区の代表者5人が立ち会った。大門観音堂の鰐口は、天草市立本渡歴史民俗資料館で開催された特別展『天草の戦国時代』(令和元年10月19日～12月28日)に出品されて、展覧会から返却された後は盗難防止のために観音堂の天井には吊るさず、併設する公民館の保管庫に収納されていた。

##### (1) 被災状況

堂および公民館は天井近くまで水没した跡が見られ、公民館の保管庫を開けると、天板付近に棟札が引っ掛かっていた。鰐口は美術品運送業者が梱包した状態のまま水没し、濡れた状態で約50日経過していた。ボロボロになった段ボール箱を破って鰐口を取り出すと(図6)、吊し金具の鉄錆が鰐口本体部分にまで広がっていた(図7)。さらに災害泥が付着していたので、その場で軽く水洗いして乾かした。文化振興課および地元住民代表者による協議の結果、鰐口は八代市立

博物館未来の森ミュージアムに緊急避難させて、災害復興の目途が立つまで博物館で預かることになった。この鰐口は熊本県指定重要文化財であるため、八代市文化振興課から熊本県教育庁文化課へ、被害状況の説明と所在場所の変更について、口頭にて報告した。大門観音堂の内部には何も残っておらず(図8)、安置されていた木造観音菩薩立像2軀(図9)も、その他の仏具もすべて流出していた。

一方、大門薬師堂は床上まで浸水したが、仏像および鰐口(熊本県指定重要文化財)はいずれも無事であった。



図6 八代市坂本町大門地区の公民館の保管庫の中から取りだした段ボール箱に保管されていた大門観音堂の「鰐口(熊本県指定重要文化財<sup>3)</sup>)」(撮影:2020年9月23日)



図7 八代市坂本町大門地区の大門観音堂の「鰐口(熊本県指定重要文化財<sup>3)</sup>)」左:銘文のある側, 右:銘文のない側。(撮影:2020年10月29日)



図8 被災した八代市坂本町大門地区の大門観音堂内部。(撮影：2020年9月23日)



図9 八代市坂本町大門地区の大門観音堂から水害時に流出した木造観音菩薩立像2躯<sup>1)</sup>。

## (2) 被災文化財の救出と保存管理

大門観音堂は全壊扱いで、公費解体することが決定していて、再建するか否かは未定である。大門地区には大門薬師堂もあり、観音堂を無理して再建する必要はないと筆者は考える。過去の歴史を振り返れば、仏神像の合祀は度々行われてきたことであり、貴重な仏神像や什物はこうして守り伝えられてきた。観音堂の鰐口は薬師堂で保管する方法や博物館に寄託する方法もある。筆者から複数の選択肢を地区住民に提案した。皆さんで協議して納得する答えを導き出していきたい。

## (3) 鰐口の修理計画

10月29日(木)、八代市立博物館に緊急避難させた坂本町葉木の大門観音堂の鰐口(熊本県指定重要文化財)の被害調査を実施した。調査参加者は、熊本県文化課の松尾氏、熊本県文化財保護審議会委員の前川清一氏、八代市文化振興課の西山氏、八代市立博物館未来の森ミュージアムから山崎副館長補佐、南浦氏、そして筆者の6人となった。前川氏の調査に続いて、筆者が現状写真(鰐口及び棟札)を撮影した。前川氏の見解では、数百年の年月を経て黒褐色を呈していた表面は、新たな銅錆によってざらつき、これを元通りに復元するのは困難と判断された(図6,7)。修理については熊本県文化課が主体となり、前川氏が作成する意見書をもとに、国の研究機関の意見を聴取しながら進めることになっている。

## V 皆で残そう、球磨川流域文化遺産 第1回講演と談話会

10月4日(日)、「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会」(巻末資料1)主催による講演会に、国立熊本高等専門学校・建築社会デザイン工学科・森山学教授とともに、講師として参加した。同会は「八代市や球磨川流域にゆかりの研究者、坂本町藤本大門の住民、坂本町出身者を中心に構成され、被災した文化遺産を次世代に継承するために修復、再生し、観光資源として新しい町づくりに活用して、疲弊した町に明るい日常を取り戻すことを目標に活動する。」という趣旨で発足し、以下の通り第1回講演と談話会が開催された(巻末資料2)。

講師1：森山 学(国立熊本高等専門学校・建築社会デザイン工学科・教授)

「暮らしが紡いできた坂本の建物, そのあとさき」  
講師 2: 石原 浩 (八代市立博物館未来の森ミュージアム・学芸員)

「相良の殿と流浪の宝～大門観音堂と薬師堂の仏像と鰐口」

日時: 2020年10月4日(日) 10:00～12:00

会場: 坂本町藤本地区館(旧藤本小学校内)

参加者: 約50名

森山教授は、球磨川に沿った大門の地形と暮らしの工夫、藤本五所神社や古民家の建築にみられる高度な技と優れたデザインについて報告された。郷土の文化財の魅力再発見に繋がる話であった。筆者は、坂本地区の寺社調査をもとに、寺社祠堂の被害状況と仏像や鰐口の救済活動について報告した。その後、参加者とともに、文化財の保存や活用方法について意見を交わした。

同会の活動は今後も続き、現地見学会などが予定されている。また、実行委員会との意見交換の中では、球磨川沿岸に位置する寺社祠堂の被害調査を、「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会」とともに実施するというアイデアも出された。文化財の被害調査は、文化振興課や博物館の重要な役割であるが、同会の協力が得られるならば、地元住民から直接被災状況を聞き取ることができて、さらに文化財救済後の活用に対する意見を聞くこともできる。また住民にとっても地域の魅力再発見につながる活動になるだろう。

## VI おわりに

文化財レスキューは、活動を開始するタイミングが難しいことを思い知らされる。古文書などの紙資料は、災害後わずか数日でカビが発生し、

泥にまみれた民俗文化財や美術品は、家屋の清掃や解体に伴い一掃される可能性が高い。一刻も早い救済が必要であることに異論はないが、家が流されて命からがら避難した話や、家屋再建の目途が立たないなどの話を聞くと、人命と生活の再建が第一であり、そのことに向き合わずして文化財レスキューはあり得ない。郷土の文化財は、郷土の人々に愛され、守られて、はじめて受け継がれるものである。地元の人から文化財救済の声がかかる最初のタイミングが、本格的な文化財レスキューの開始時期であると考えられるべきであろう。それまでは情報収集等に留めるなど、地元住民に負担をかけない活動が望ましいと考える。

もう1つ、今回の災害で痛感したことは、郷土の文化財を把握する悉皆調査の重要性である。ここに紹介した芦北町告の鎌瀬阿弥陀堂<sup>2)</sup>、坂本町の中津道阿弥陀堂や大門観音堂<sup>1)</sup>の事例からわかるように、当館の寺社調査の記録をもとに文化財の被害確認ができたわけである。すべての集落に存在する寺社祠堂を調査することは、地域の文化財を把握する上で、もっとも効率的で、有効な手段となりうる。災害の問題だけでなく、近年は地方における過疎化や都市における核家族化といったコミュニティの変化により、管理者不在の祠堂が増えてきた。文化財の悉皆調査は早急に取り組むべき課題の1つである。

今回の豪雨災害で被災した坂本町では、地元住民の声掛けにより「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会」が発足し、活動が始まった。この会の活動成果が災害復興計画に生かされることになれば、歴史と文化と自然を体感する魅力ある町として、新時代にふさわしい災害復興モデルを、全国に先駆けて提唱できるのではないだろうか。

VII 参考文献・情報

1) 八代市立博物館未来の森ミュージアムでは、1992（平成4）年から3ヶ年にわたり八代市内寺社歴史資料調査を実施し、『八代市内主要寺社歴史資料調査報告書1』1993（平成5）年、『同2』1995（平成7）年を刊行した。さらに2005（平成17）年8月1日、八代市・千丁町・鏡町・坂本村・東陽村・泉村が合併したことを機に、八代市全体の歴史を解明するため、2007（平成19）年度から5ヶ年にわたり新たに八代市に加わった地域の寺社資料調査を実施し、『八代郡内寺社資料調査報

告書』を2012（平成24）年に刊行した。この時に実施した「悉皆調査」の全調書が博物館に保管されている。報告書には重要な文化財のみが掲載されている。

2) 芦北町告の鎌瀬阿弥陀堂の調査は、芦北町教育委員会生涯学習課文化振興係の依頼により、2015（平成27）年2月23日（月）、筆者が実施したものである。

3) 大門観音堂の鰐口（県指定）。八代市文化情報。http://www.city.yatsushiro.lg.jp/bunka/kiji003944/index.html, accessed on 28 April 2021.

2020年9月25日

企画書

### みんなで残そう、球磨川流域文化遺産

プロジェクト実行委員会 実行委員長  
国立熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科教授 森山 学

7月の九州豪雨で亡くなられた方々についてお悔やみを申し上げ、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。私たちは被災された方々の悲しみに寄り添いながら、地域の復興を目指して、ともに歩きつづけます。

**【企画趣旨】**  
豪雨は美しく豊かな自然、人々の心の拠り所である集落の佇まいに、大きな爪痕を残しました。先人たちが守ってきた歴史的建造物である神社、寺、御堂、祠、また小径、石段、隧道、公民館、多くの民家などが消滅の危機にさらされています。このたび、流域ゆかりの研究者と坂本町藤本大門住民有志、同出身者が、「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会」を結成し、被災した文化遺産を修復、祭りや行事などを復活し、観光資源として新しい町づくりに活用し、傷つき疲弊した町に明るい日常をとりもどすために活動していきたいと思っています。

地域の宝である文化遺産を次世代に継承することは、当代を生きる私たちの使命であり、被災された方々や故郷を思う人々の心のケアにもなると考えるからです。集落の形が変容しても、叫ぶならば再び皆でこの地で暮らせるようにと心から願い、離れても、季節の行事には訪ねて交流できるような、温かな町づくりを目指しています。

つきましては、10月4日午前10時より坂本町藤本地区館（旧藤本小学校内）におきまして、「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・第1回講演会と談話会」を開催します。ご参加の皆様は、ご意見やご提案をうかがい、今後の活動の参考にしたいと思っております。

故郷を一つにする八代市、そして球磨川流域の皆様、坂本町を愛してくださる皆様には、本プロジェクトにご賛同いただき、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

**\*文化遺産：参考例**  
①藤本五所神社、五所神社境内の天然記念物の大樹群と小神社、集落の古民家、藤本天満宮、塩合川の石橋、藤本と対岸を結ぶ潜水橋（沈下橋、徒歩わたり）②大門薬師堂の薬師如来立像と鰐口、大門観音堂と県下最古の鰐口、集落の小径と石垣、稲荷神社、大門の金比羅さん、山の神、川の神の祀り、山江林道③百済来地蔵堂④津道阿蘇神社⑤古田阿蘇神社⑥船場西福寺の船場発電所跡⑦中谷小崎めがね橋⑧栗木「鶴之湯旅館」⑨JR 肥後線「坂本駅」「一勝地駅」他 ⑩近郊球磨村の文化遺産など。（その他、球磨川本流、支流域の文化遺産についても顕彰していきます）

連絡先：みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト 代表 藤崎昭子  
事務局：〒866-0065 八代市坂本町栗木 4398-1 藤崎方 080-6534-4428（広報 上村美鈴）

資料1 みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会企画書

## みんなで残そう、球磨川流域文化遺産

### 第1回 講演と談話会へのお誘い

7月の九州豪雨で亡くなられた方々に、つつしんでお悔やみを申し上げ、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。私たちは被災された方々の悲しみに寄り添いながら、地域の復興を目指して、ともに歩きつづけます。

講師：森山 学 国立熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科教授  
「暮らしが紡いできた坂本の建物、そのあとさき」

講師：石原 浩 八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員  
「相良の殿と流浪の宝〜大門観音堂と薬師堂の仏像と鰐口」

日時 2020 10/4（日）am 10:00～11:30  
会場 坂本町藤本地区館（坂本町・旧藤本小学校内）  
申込 入場無料 70名様 ★電話申込 080-6534-4428  
主催 みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会

**重要 主催者よりコロナ対策とお断り**  
①椅子が不足していますので座椅子、折り椅子、座布団をお持ちください。  
②37.5℃以上の熱のある方、県外からのご参加はご遠慮ください。  
③マスクの着用をお願いします。着用不可の場合はお申し出ください。  
④会場入口で体温測定と、消毒液による手指の消毒をお願いします。  
⑤会場内ではできるだけ会話を避け、静粛をお願いします。  
⑥談話会での発言前に、「マイクのカバー」を毎回取り替えます。

八代市や球磨川流域にゆかりの研究者、坂本町藤本大門住民、坂本町出身者を中心に構成する「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会」は、被災した文化遺産を次世代に継承するために修復、観光資源として新しい町づくりに活用して、疲弊した町に明るい日常をとりもどすことを目標に活動しています。

講演後は講師の先生方と交えて、少し前の暮らしや今の暮らし、上の世代から聞いた話、新しい町づくりなどについて、皆で気軽に語り合いたいと思います。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

写真（左上）被災前の藤本五所神社（左下）旧藤本地区館の小さな石橋 ©Mitsuru Uemura

連絡先： みんなで残そう、球磨川流域文化遺産・プロジェクト実行委員会  
事務局： 〒866-0065 八代市坂本町栗木 4398-1 藤崎方 ☎080-6534-4428（上村）

資料2 みんなで残そう、球磨川流域文化遺産 第1回 講演と談話会チラシ